



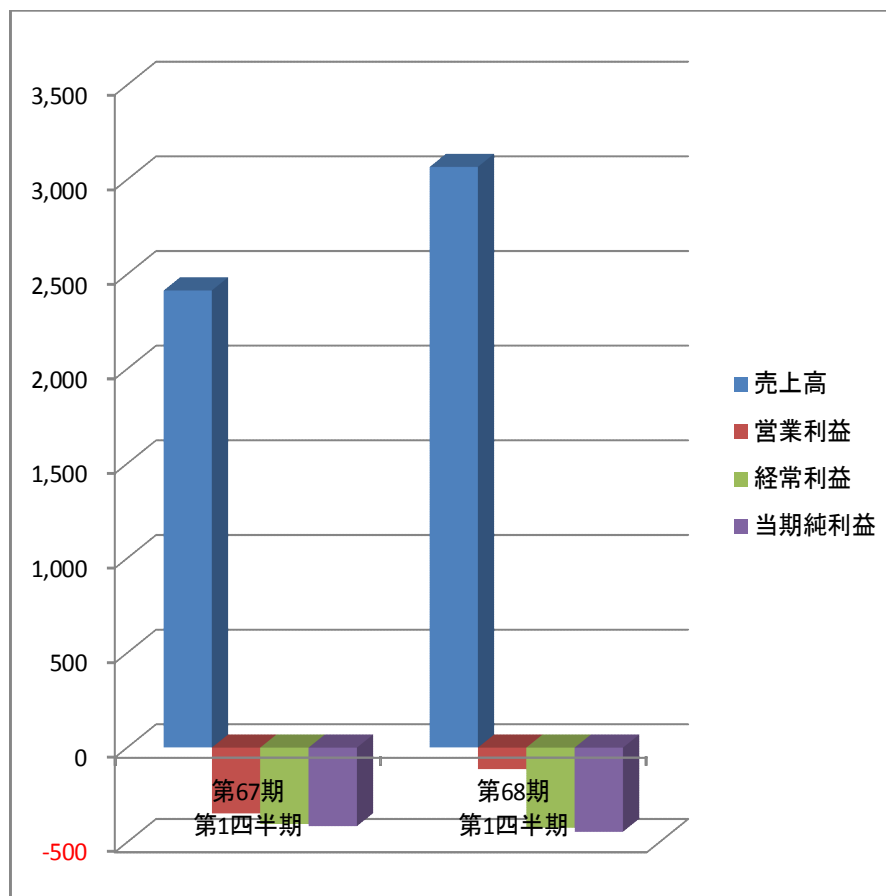
桂川電機株式会社

平成25年3月期 第1四半期業績状況

平成25年 第1四半期 連結業績

[単位: 百万円]

	平成24年 第1 四半期	平成25年 第1 四半期	前年 比 (%)
売上高	2,414	3,067	127
営業利益	-348	-114	-
経常利益	-403	-423	-
当期純利益	-415	-445	-
総資産	16,356	14,588	-



平成25年 第1四半期連結業績

連結営業成績

平成25年第1四半期の売上高は、30億67百万円、営業利益は、1億14百万円の損失、純利益は、4億45百万円の損失となりました。

為替差損は、3億4千万円です。
売上総利益の比率が21.5→23%となり回復の傾向にあります。

個別営業成績

桂川電機単体の業績において、当第1四半期の総売上は、前年16%アップとなり、地域別にみますと、米国、アジアが好調です。

当社グループにおきましては、販売面では、国内市場で既存得意先との深耕や新規販売先の拡大に努め、北米市場で高機能・省ランニングコストのカラー機種、アジア市場でモノクロ機種と、それぞれ拡販に注力し取り組んでまいりました。

開発面では、技術開発部門の一元化による開発コストの合理化を行い、生産面では、部材の海外調達比率を高め、更なる内部コストの削減に努めてまいりました。

その結果、北米及びアジア市場では売上を伸ばす事が出来ました。

組織体制の見直し及び人員削減等による合理化



ヨーロッパ各社のグループ組織と人事の再編を行い、ヨーロッパ市場の販売体制を、起動できるように改革を実行中です。

当第1四半期における連結の売上高は前年比で27%アップとなりました。中でもKIP c7800 大判カラープリンタが好評です。米国市場における売上が好調です。また、モノクロ機種においては、KIP 7100、KIP 7700、KIP 7900が好評です。

収益構造の改善



1. 国内外の販売会社を含めた営業体制及び営業活動を強化し、ショー、内覧会を開催し積極的に活動しております。
2. 固定費を含むコスト管理の強化します。
3. 在庫削減を含めた管理及び購入調整を強化します。

生産構造の改善

海外生産拠点における直接の調達割合を増加させます。

(例えば、海外生産のA機種において10～20%増加させます)

桂川電機株式会社は、財務面においてヨーロッパ市場の販売体制を、より素早く、より柔軟に行うに十分な資金を有しております。厳しい事業環境を乗り越えるための資金繰りに支障はないと判断しており、ほぼ無借金で健全な経営を行っております。

グループ内の資金にて好調なアメリカによる資本を投入して欧州の再編も視野に入れております。

技術開発部門の一元化

情報の共有化が進み、開発の進捗管理がし易くなり業務の遂行がなめらかになりました。

新規事業の開拓

当社技術をいかした新たな事業化展開のため、技術調査し、事業化の可能性を検討しております。

固定資産の有効活用

自社ビルを有効利用しております。

卓越した技術力と開発力、迅速な開発プロセス、効率的な生産設備を備え、それらをベースとして、極めてタイムリーな新製品の開発を行い市場に提供し続けてまいります。

